



ビ
エ
ゼ
ツ
ト
新
聞
抄
譯

深
津
正
義
譯

4093



114
A1979



ペルメ

トルビエマツト新聞抄譯

西班牙國稅目及葡萄酒稅之事

茲ニ甚ク短縮ノ時日ニ於テ我ガ下院カ葡萄酒
 及ビスピリツトノ稅ニ係ハル諸疑問ヲ再考再
 閱スルハ寔ニ免ルヘカラザル論題タリ我輩ハ
 過ル四ヶ月間ニ於テ外國人カ此稅ノ正邪ヲ論
 スル已ニ貳回マラニ及ヒタルヲ記臆セリ而
 外國人ハ我輩ガ監視スル能ハサルノ仕方ヲ以
 テ充分ニ其異論ヲ檢論セリキ佛蘭西國トイ
 カ貿易條約改正ノ商議ニ起レル紛糾ハ西班牙
 國新定稅目ノ發行前ニ生セシモノナリ此紛糾
 ハ我カ貿易ニ直接ノ影響ヲ與ヘルカ上ニ俱
 ニ均一層激烈ノ論駁ヲ誘フタリ今ニ至ルマ

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄

大藏省

テ我輩ハ自由貿易ノ真理ニ向テハ我輩ニ
ハ決シテ之ニ背ク所アラサルヲ信シ幾分カ満
足スル所アリキ且ツ我輩ハ貿易上外國人ヨリ
恩惠ヲ受ケシコトモナクマタ之ヲ請ヒシコト
モナシ是レ皆ナ世人ノ明知スル所ナラム也
ニ我國接近ノ隣國中ノ二國ニ於テハ今尚ホ我
輩自己ノ保存スル所ニ過失アルヲ責ムル
甚シ佛蘭西國葡萄酒釀製者ハ我輩ノ保護税法
ニ傾偏スルヲ責メ又西班牙ノ葡萄酒釀製者ハ
偏頗ノ税金ヲ以テ其ノ貿易ヲ妨グルヲ咎ム斯
ノ如クニシテ皆ナ同ジク我輩ト共ニ眞ノ自由
貿易ノ域ニ至ルヲ好マズ而シテ此異論ノ倒シ其
ノ上ニ出ントスルニハ我輩自己ノ地位ヲ去ル

ニ非ザルヨリハ決シテ易容ノコトニアラザル
ベシ
我ガ法度ニ過失弊害アルヤ否ヤヲ見出サント
スルハ固ヨリ煩勞無益ナリ而シテ又我輩ノ明瞭
ナル解説ニモ拘ハラズ一般ニ財政ノ語ヲ了解
セサル佛蘭西人西班牙ノコトニ付論ズルハ猶
又無益ナリ若シ夫レ我輩ガ道德及ビ經濟ノ真
理ヲ確信シ我輩自ラヲ保存スルノミニテ止マ
ント欲セバ佛蘭西人及ビ西班牙人ニハ相
答辨ヲ與ヘ競争ノ地ヲ去リ此兩國人ガ自由貿
易ノ真理ヲ解悟シテ英吉利國ノ柔和ナルヲ了
知スルノトキ至ルヲ待マベシ是レ甚ク易容ノ
コトナリト雖モ我貿易上ノ政術ヲ

賢益アルモノニ非ズル要セザル
葡萄酒稅ニ付キ佛蘭西國及ヒ西班牙國ノ葡萄酒
酒釀製者ノ襲撃ハ我が財政ノ権手タルコトニ
係ハリ我輩ノ信ヲ減ムセシムルニ屬ス何トナ
レハ我輩ハ此説論ニ致テハ常ニ費消者ニシテ
佛蘭人及ビ西班牙人ハ常ニ製造者タルヲ以テ
ナリ夫レ國財法ノ過失ヲ論ズレハ常ニ費消者
ハ延滞ニシテ製造者ハ急速ナルハ今日ニ致テ
一般ノ通例ト成リタルモノ、如レ而シテ佛蘭
西國及ヒ西班牙國ノ兩人民ヨリ極々ノ條理ヲ
以テ抗論スル所ノ此收稅ハ之ヲ徵收スル國
為メニ利益アルベキモノニアラザレカ又彼レ
ニ害アルニモアラザレカヲ考究スルハ我が自

己ノ注意スベキモノナリ今我輩ハ急速ヲ以テ
カ或ハ確証ナリシテ此稅額ヲ變革スルハ是ニ
能ハザレ所ナリ何トナレハ然ルトキハ佛蘭西
西班牙ノ兩政府ハ其ノ壓制ノ實効ヲ得タルヲ
示スベクアレバナリ然レハ葡萄酒稅ノ施行ノ研
究ハ害アルベキニハアラズ而シテ事件ヲ解ク
知ルモノハ今日ノ下院議員ガ五六年前ニ致テ
此議論ノ起リシトキニ當テ大藏省ニ致テ決議
スルニ至リシ所ノ議ヲ主張スルヲ欲スルヤ否
ヤニツキテハ甚タ疑念アリ若シ葡萄酒稅ヲ減
少スルハ果シテ英國人ノ費消者ニ利益アリト
ヤバ佛蘭西西班牙ヨリ國ノ之ヲ望ミタルニ國
テ之ヲ減ムスルヲ端ブノ理モナクニ

ル容故ヲ價フニ容故ヲ以テスルハ此ノ如クナ
 リトテ之ヲ辭ムノ理モアルベカラズ英吉利國
 ニ於テハ常ニ其ノ貿易約條ノ証スルガ如ク公正
 ノ真理ヲ取レリ且ツ假令我々自巳ノ利益ヲ
 加シガ爲メ多ク損害ヲ他國ノ人ニ與フル共
 16國民ヲ嘲弄スル如ク始テ我輩ノ數
 26致セバ所ニ今日之始テ我輩ノ數
 又之ヲ行フコトアルベシ若シ我輩ノ數
 葡。萄。酒。稅。減。少。スルコトハ我輩ノ數
 西。班。牙。稅。減。少。スルコトハ我輩ノ數
 西。班。牙。稅。減。少。スルコトハ我輩ノ數
 見スルニ於テハ之ヲ數年ノ後テニマテ相互ニ
 満足ヲ與フベキハ疑ヒナシ且ツ近年歐洲大陸

二於テ茲過セル實驗ノ間既ニ失ヘル所ノ地位
 ヲモ復シ自由貿易ヲ起スヲ得ベシ
 我々英吉利國ニ於テ年々葡萄酒ノ爲メニ得
 所ノ税金ハ第一ニハアルコトニ於テ二十六度ヨ
 リ少ナキ葡萄酒ニ課スル所ノ一ガロンニ一
 シルリングノ税金第二ニハ一ガロンニ半ク
 ロウアンノ割合ヲ以テ徵スル所ノアルコトニ於
 二十六度以下四十二度以上ノモノナリ而シテ佛
 蘭西人ノ主張スル所ハ此第一ノモノニ係ハレリ
 西班人ノ論スル所ハ此第二ノモノニ係ハレリ
 ナリ佛蘭西人曰ク若シ一シルリングノ税金ヲ薄
 氣ノ廉價ナル葡萄酒ニ課スルトキハ其實驗ニ
 於テハ禁制ト何ゾ異ナルコトアラズ若シ之ヲ

行ノニ於テハ過半ノ場合ニ於テハ之價稅
額ハ百分ノ百ノ割合ノ金額ニ至ル時アリテハ
百ニ二百ノ割合ト成ルベシト而シテ佛蘭西國ニ
於テ製造スル葡萄酒ノ五十分ノ四ハ皆テ此等級
中ニ入ルベキモノニシテ許多ノ海關稅ガ其内
ノ市場ニ入ルヲ妨グル所ノモノナリ此事ニリ
キテハ假令佛蘭西國ノ保護稅論家ガ是ヨリ引
ク所ノ定說ハ無論我輩ノ許サバル所タルモ其
ノ實事タルニ於テハ疑フベカラズ又佛蘭西人
ハ英吉利國ガ自由貿易ニツイテ只之ヲ外節ト
ナスノミナリ又廉價ニテアルコール見ノ十度
ヨリ二十度マデノ葡萄酒ニ一シルリシテ課
スルハ蓋シ内地稅ニペニ一ニ半ヲ拂フ所ノ英

吉利國交酒ヲ保護セン為ニ出デシナリシト
確定セリ又西班牙ノ如キハ釐ニ八ペンニ一稅
ヲ告メ是ヲ以テ佛蘭西日身曼ノ葡萄酒ノ為
ニ判アリテセリ一酒及ビポルト酒ニハ害アル
偏頗ノ稅ナリトセリ佛蘭西國東方及ビ西方ノ
大イニ酒精アル葡萄酒ノ如キハゼルス及ビラ
ポルトヨリ來ル所ノモノト同ジクハペンニ一
一稅ノ為メニ全ク英吉利國市場ニ入ルヲ妨ケ
ラレタルモノナルガ故ニ佛蘭西國ハ此稅
ヲ充分ニ許フルノ條理アルベシ然ルニ海關稅
法ノ一部タル此事件ノ咎嗟ハ舊大藏卿(西班牙)
ラ大藏卿ナセノール、バルザラナリトテ
ラ大藏卿ニ許フルナリトテ
ラ大藏卿ニ許フルナリトテ

ニ於テ公言セルト、西班牙ヨリ起
此訴訟ノ條理ナキハ之ヲ陳述スルヲ要セザル
ナリ或ガ英吉利國ニ於テ此類ノ葡萄酒ニ同様
ノ税額ヲ課スルハ西班牙、葡萄牙、ケリア、澳太利
日耳曼、伊太利、希臘、佛蘭西ヲ分別スルコト
ガ故ニ此税額ハ決シテ病類ノ税額トハ云フヲ
得サルナリ然レレ西班牙國ノ政治家ハ注意
ル經濟學家ニ非ザルヲ以テ其學術ニ適當ノ語
ヲ用ヒサルノ過失ハ之ヲ免スベシ
且ツ夫レ葡萄酒貿易ノ追々其ノ廣大ノ勢ヲ減
スレコトノ如キハ決シテ疑ヒヲ容ル、ヲ要セ
サルナリ、考ルノ葡萄酒ハ其ノ佛蘭西國ヨリ來
ルト西班牙ヨリ入ルトニ分ナク常ニ之ヲジシ

ルウム及ヒワイスキニ代用スルガ為メ其ノ擴
張ヲ成スニ於テハ(是レ然シナガラ實際ニ出來
難キ所ナリ)我カ國ノ人夫勞力者ヲシテ為メ
強壯タルヲ得セシムルハ疑ヒナシ、今ヤ薄
氣ノ葡萄酒ト麥酒(殊ニパアリツク、ハウスノ麦
酒)トニ於テ其ノ何レヲ撰ムベキヤヲ入札セシ
メハ葡萄酒ハ動物學家及ヒ仁者ノ為メニハ入
札ヲ受クベシト雖、此收税ニ公然同意スル人ニ
ツキテハ之ト大ニニ相異スベシ夫レ租税
甚ダレキ擾亂ヲ起スモノハスピリット税ニ係
ハル議論ナリ、五十年前ニ於テ葡萄酒ノ改正ヲ
ナサントセシトキ海關稅局及ビ内地稅局ノ抗
拒ヲ生ゼシヨリ竟ニ大藏省ヲシテ之ノキ

大藏省

ノサリシ而ノ火曜ニタイムス新聞
ハ今同モマタ此控抗ニ會スベシ然レ此我軍
ハ該省ノ官吏ノ主義ハ之ヲ考究ノ相當ノ裁判
所ニ於テ其ノ是非ヲ決スベキヲ欲マントス既
ニ定ル主義ノ如キハ全ク不當ノ想像ニ爲
ト見エタリ酒精アル葡萄酒即ケハペンニ
定抗ノモノハスピリット競フコトヲ得ベキ
モノニシテ且ツ之ニ代用スルヲ得ベキハ造カ
ニシテ石灰堀入夫及ヒ御有ガジンノ代用ニセ
リ一ヲ用エルガ如シ然レ此是レハコレ一ツノ
想像ノミナレ氏其ノ葡萄酒ノ滋味ノスピリ
トニ異ナル俾ズルハ理アルコトナリ而ノ貿易
ノ一葉ヲ擴大トナルカ為ノ他葉ニ差響キヲ子

フルコトアルベカラズ稅局ニ於テハ決レテ
セルリーニ代ルニジンウキスヤヲ以テスルヲ
得ヘキヲ証セントスルコトアルベカラス一
八百七十二年ニ該局ニ於テ論議セル所ノ如キ
ハ只一目ニシテハ善良ノ論議ト見エルナリ其
ノ論議ニ據レハ廉價ノ酒精アル葡萄酒ハ内國
ニテ是レガ釀製ヲ禁示スルヲ得ルニ於テハ充
分ニ輸入セラルベシト然ルニ葡萄酒政府ハ之
ニ答テ曰ク密買ノ為ノ國ニ受ル所ノ損失ハ釀
製ノ極トシテノ三葡萄酒ヲ用ユルヨリ得ル所
ノ利ヲ償フニ足ラス又リクールシドルノ如キ
ハ廉價ニテ此用ニ供スルヲ得ベキモ其ノ實際
ニ於テハ斯ク大イテ其要用ヲナセシムコトハ決

大
意
旨

シテアラサリシト夫レ然リ設ク今昔ニ於テ海
関税局及ヒ内地税局ハ五十年前ニ此税額ノ改
正ニツキ抗論セシ所ヨリ一層善良ノ説アルコ
トナキニモセヨ我輩ハ尙ホ之ヲ考究スレハ無
害ノ事ナリト信ゼザルヲ得ザルナリ又下院ノ
委員ハ未ダ帝ヲ成就ニ至ラザル論議設バ他國
ニ於テ未タ経験セル所タルスピリット及ヒ葡
萄酒ノ税論ノ如キモノニツキ之ヲ有益ヲ以テ
考究スルヲ得ベシ到底租税局官吏ノ如キモス
ベリシト税ノ減ヌヲ恐ルハモノ少ナキガ故ニ
英吉利國ト兩國トノ間ニ永久ノ貿易條約ヲ定
ムベキノ機會ヲ失スルハ寔ニ遺憾也

